

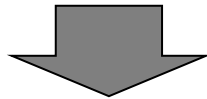
平成27年度 町政座談会のとりまとめ

1 しごとをつくり、安心して働けるようにする

(1) 仕事

【主な意見】

- ・後継者が自立できるよう研修制度や各種情報提供を行ってほしい。
- ・Uターン者を正職で雇ってほしい。
- ・地域特性を生かした企業誘致や起業の支援を行う。
- ・福祉関連の職場は多いが、それ以外に若い方が希望する職種が少ない。
- ・介護施設等があっても若い人がいないと介護できない。雇用対策を考えてほしい。
- ・「子育てするなら帰る」・「職が有れば帰る」との声はたくさん有る。
- ・仕事の内容や賃貸住宅等のある地域が偏っている。



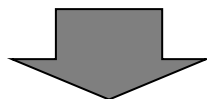
【必要な施策】

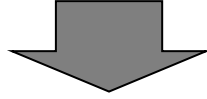
- ・勤務先の確保
- ・企業への支援の充実
- ・後継者が自立できるよう研修制度や各種情報提供の充実

(2) 産業

【主な意見】

- ・地元に住む異業種の方々に、例えば研修旅行等を通して横のつながりを持たせることが重要。
- ・地元にいる者に、本人の生業に生かせる県外研修への機会を与え、金銭的支援も行ってもらいたい。
- ・農林業後継者育成、医療福祉従事者確保などの奨学金はありがたい制度。
- ・Uターン新規就農が多い。何かプラスアルファの魅力あるものがほしい。
- ・よそにはない特色ある品種の米を栽培してはどうか。
- ・地産地消など地域の農産物が高価格で売れる施策をしてほしい。
- ・農業後継者を育成しないと、農地が荒れて行くだけ。
- ・高齢化により農地経営ができない、条件不利地はなおのことであり、対策を講じてほしい。農作業の支援をしてくれるチームのような集団があれば助かる。





【必要な施策】

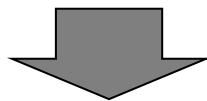
- ・ 異業種同士の連携強化
- ・ 県外研修の機会の提供
- ・ 農林業後継者の育成
- ・ 医療福祉従事者確保に向けた奨学金制度の充実
- ・ 新規就農者に対する支援の充実
- ・ 農産物の高付加価値化の推進
- ・ 農作業を支援する仕組みづくり

2 本町への新しいひとの流れをつくる

(1) Uターン・定住促進

【主な意見】

- ・Uターンを促進しても住む場所がない。住まいがあれば来たい人はいる。
- ・転入時のコスト、補助制度がわかるようなホームページにしてほしい。
- ・Uターン者に暮らしの便利帳を配布してほしい。
- ・Uターン体験談などを広報でシリーズ化する。
- ・町から通勤できる近隣の職場の情報提供がほしい。
- ・Uターン者には地域の状況がわからない。地域の情報や慣習などがわかるよう情報提供してほしい。
- ・卒業後、直ぐにUターン者に、奨励金を出したらどうか。
- ・Uターン時に、所得が下がる半面、住民税等は上がる場合が多い。税金や利用料などが高い場合、軽減のための助成措置をしてほしい。
- ・Uターン者には多くの補助制度があるが、もともと地元にいる者に同居を進める制度を。また、多様な補助制度を。
- ・ベッドタウン化に力を入れて交通費を助成する。
- ・有害鳥獣対策を根本的に実施しないと住む人はいない。定住・農業ともにダメになる。



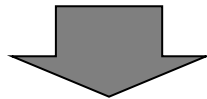
【必要な施策】

- ・Uターンのための住宅の整備
- ・インターネット等における情報発信の充実（空き家情報、仕事の情報、Uターンに関する支援等）
- ・定年を迎えた出身者に対する情報発信
- ・Uターン者に対する情報の提供（地域の情報・慣習等）
- ・家賃を町が助成する等の制度の実施（Uターンして5年間）
- ・町外勤務者への交通費の助成
- ・大学卒業後のUターン者への奨励金の助成
- ・同居を進める制度など地元にいる人への支援
- ・有害鳥獣対策の充実

(2) 空き家対策

【意見】

- ・ 空き家が多く、老朽化しており、所有者がなかなか貸してくれない。
- ・ 住宅の広報がないから、空き家等の情報が不足している。
- ・ 空き家に入る場合、改修費が負担になる。
- ・ 空き屋の改修に併せライフライン改修についても手厚く助成すべき。
- ・ 空き家はあるが貸してもらえないところがない。空き家を斡旋する機関を充実すべき。
- ・ 空き家を修繕して貸したいと考えているが、相談はどこにしたらよいかわからない。
- ・ 空き家等に関して町が中に入り、コーディネートするような方向で仲介してほしい。
- ・ 空き家や利用されていない土地を利用し、芸術家関係やパラグライダー等の趣味のできる人を呼び込みながら定住に結び付けてはどうか。
- ・ 空き家店舗が増えている、デザインや肉屋などインターネットで呼びかけUターンで埋めたらどうか。
- ・ 空き家を見に来られるが下水がなくリフォームが必要なので利用に結びついていない。まず町がリフォームして見てもらったらどうか。



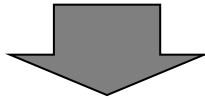
【必要な施策】

- ・ 空き家改修の補助の充実
- ・ 町外在住者に対し、空き家を放置するデメリットの周知
- ・ 更地にした場合の利活用の検討、賃貸住宅建設補助事業の内容見直等による事業者の参入促進
- ・ 空き家の売却等に関する情報提供
- ・ 農地付きの空き家の検討
- ・ ライフライン改修への助成
- ・ 空き家の仲介等コーディネート機能の充実
- ・ 空き家に関する相談支援の充実

(3) 観光

【意見】

- ・町の良いところのPRが足りない。
- ・ターゲットを絞ったPRをしたほうがよい。
- ・はじめて訪れる人にも分かりやすい案内看板やルート設定が必要。
- ・繰り返し来てみたくなるような、宿泊してみたくなるような観光開発が必要。
- ・今ある素材を行かした観光を推進すべき。
- ・訪れた人が町民と交流できるような観光の形ができないか。



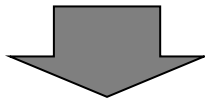
【必要な施策】

- ・観光に関するPRの充実
- ・わかりやすい案内看板の作成、ルートの設定
- ・地域住民と観光客との交流の場の創出

(4) 特産品

【意見】

- ・若い女性の視点で特産開発をすべき。
- ・特産開発は長期的な見通しと十分な予算をかけてしっかりとしたものを作ってほしい。
- ・お土産にできるものがほしい。
- ・邑南町にはおいしい水がある。都会の業者が町の水を外国に販売する試みをしているらしい。このような資源で産業を起こし、町の活性化を図る施策に取り組めないか。



【必要な施策】

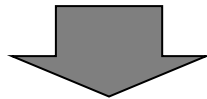
- ・女性をターゲットとした特産品の開発
- ・邑南町ならではの特産品・お土産の開発
- ・海外へ向けたおいしい水の販売促進

3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える

(1) ふるさと教育

【意見】

- ・Uターンしたが自分の町についてわからないことが多い。中高生が自分の町が何をやっているかわからないまま外へ出ていく。
- ・価値観を変えるふるさと教育をしたらどうか。自分は子どもの頃にウナギを取った田舎で暮らしたくて帰ってきた。
- ・子ども達が将来帰ってこられるように、町の良さなどを体感・体験していくことが大事。
- ・子ども観光大使をつくったが、今後は活用方法を考えてほしい。
- ・矢上高校等の生徒が地元で活躍できる場所を設けるといい。
- ・親もり歌(上の句を子ども、下の句を親がつくる和歌)を活用したいが場がない。
- ・脳トレの指導等ができるが活動の場所が無い。



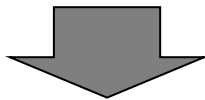
【必要な施策】

- ・中高生に対するふるさと教育の充実(町の情報提供、町のよさなどの体感・体験など)
- ・子ども観光大使の活用方法の検討
- ・地元住民と協力した教育活動の推進

(2) 矢上高校

【意見】

- ・高校存続には全国的に通用する学力の向上対策が必要。
- ・矢上高校がなくなったらどうなるか。住民全体で認識すべき。
- ・通学の利便性を高めてほしい。
- ・産業技術科のカリキュラムをもっと様々な分野に広げて特色を出すべき。(パティシエ等もいいと思う)
- ・普通科2クラスという、少人数体制のカリキュラムで成績が伸びる場合もある。これを逆手にとって、成績アップにつなげ生徒を増やしてほしい。
- ・矢上高校も含め邑南町の児童・生徒の授業のカリキュラムの中に、地元で頑張っている人の体験談などを入れてはどうか。
- ・野菜(白菜等)を種から育てる喜びを経験(授業に入れる。)したらよい。
- ・私立等全国から教員、指導者等トップクラスの人材を集める。
- ・野球や吹奏楽などのクラブを充実することによって、生徒が集まってくるのでは。
- ・高校入学において、中学校からの部活を頑張れるよう、指導者の確保が必要。
- ・福祉学科などの創設。
- ・環境、農業、林業の最先端の学科を置いたらどうか。
- ・進学サポート等教育内容についてのアピール不足。
- ・矢高スイーツを住民が知らない。もっと住民にも周知する必要がある。
- ・塾講師を1ターンで呼んで学力アップを図る。
- ・町外へ進学が増えている。公営の塾を作れば矢上高校も進学率が上がる。
- ・農協と連携して、売り上げと経費等の営農意識を勉強すれば、就農につながる。



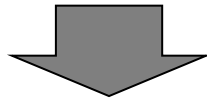
【必要な施策】

- ・全国に通用する学力向上に向けた教育の充実
- ・様々な資格取得に向けた授業の導入
- ・通学の利便性の向上(公共交通、スクールバス等での直行便)
- ・食育の推進
- ・全国トップクラスの人材の確保
- ・クラブ活動の充実(活動内容の充実、指導者の確保)
- ・進学サポート等の情報提供の充実
- ・公営塾の設置
- ・営農意識の醸成

(3) 子育て

【意見】

- 行政の縦割りを廃して保育と教育の連携による子育て支援をしてほしい。
- 奨学金制度は良い施策だと思う。子どもが帰って来るきっかけとなる施策を作ってほしい。
- 子育て日本一ならUターン者に対して第1子から保育料無料にしたらどうか。
- 医療品を買える場が少ない。
- あいさつをしない子どもが多い。
- 苗植え体験、ゲーム交流など、学校ではできない世代を超えた関わりが大切。
- 若い人が同居しないので、世代間交流が足りない。
- 町民全体が子育て村の一員として取り組む必要がある。



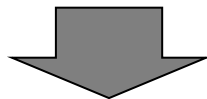
【必要な施策】

- 教育・保育の連携強化
- Uターン者に対する保育料の無料化（第1子から）
- あいさつ運動の実施・強化
- 世代間交流できる場の提供

(4) 結婚

【意見】

- 婚活イベントを増やしてほしい。
- 若い女性がUターンしてきているので地元の独身男性との出会いの場を提供してほしい。
- テレビの婚活はよかった。Uターンを求める出会いの場、イベントをしてほしい。
- 独身男女の把握と比率がどうか、帰っても未婚になる。



【必要な施策】

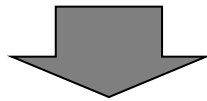
- 婚活イベントの充実（出会いの場の提供、イベントの実施等）

4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

(1) ケーブルテレビ

【意見】

- ・CATVで商店のPRが出来ないか。
- ・おおなんケーブルはもっとCMを取り入れて、収入を増やし加入者負担を下げたらどうか。
- ・CATVの番組表が、せめて月1回はほしい。
- ・ケーブルテレビは学校行事などもよく取り上げてくれるので良い。できれば、学校行事等の番組をDVDにおとして学校に配ってほしい。
- ・同じ情報を繰り返し流すのはやめてほしい。おおなんニュースの充実。
- ・番組制作等でもっと民間の力を活用できないか。
- ・文字放送がいつでも見れるようにしてほしい。
- ・自主放送の内容について、保育所や学校行事が目立つ。もう少し地域行事を放送してほしい。
- ・昔ながらの旬の料理番組を流すのはどうか。同じ料理でも地域で異なるものがあるはず。
- ・データ放送にイベントなどが乗っていない。情報収集に努めてほしい。



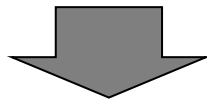
【必要な施策】

- ・ケーブルテレビの充実（番組表の確認、おおなんニュースの充実、民間企業と連携した番組制作、地域行事の放送、地元の旬の料理番組の提供、イベント情報の充実）
- ・ケーブルテレビ内での商店のPR
- ・CMを取り入れ、加入者負担の軽減

(2) 交通

【意見】

- ・大型でなくとも10人乗りのバスなどで、通院、買い物などができるよう、きめ細かく運行してほしい。
- ・町営バスで、朝夕は乗客は多いが日中は空いている。無駄が多い。日中は小さいバスにするなど工夫すべき。
- ・公共交通が行き渡っていない地区へ、デマンドバス等きめ細かい交通体系が必要である。車が無ければどこにも行けない。
- ・午前のバスで診療所などにいくと、昼まで帰りのバスがない。朝から昼までの間に帰りの便を1台増やしてほしい。
- ・飯南町谷自治会にみられるよう、自主運営のバスを勉強し、運営すればどうか。
- ・キャラクター(例＝オオナン・ショウ)等のラッピングを行い楽しめるバスにしてはどうか
- ・バスの回数券をどこでも買えるようにしてほしい。今は役場、支所、道の駅等しかない。
- ・交通弱者の対策としてバス停を考える、補助対応タクシー券を発行するようできないか。
- ・停留所には到着予測時刻等が表示されると助かる。
- ・現在バスは路線バスなので停留所まで行けない人がたくさんいる、デマンドバスに移行してほしい。
- ・小回りのきく、福祉タクシーにしたらどうか。
- ・タクシーの営業時間が短い。
- ・三江線はなかなか利用できない、場所、便数、利便性から。
- ・サービスと利用者負担のバランス等難しいとは思いますが、交通弱者（日貴地域は冬期・夜間にタクシーに断られるケースが有る）には公共サービスの充実が必要。
- ・観光で名勝などを回りたい方に公共交通が対応していない。
- ・高齢者で免許を返納したが、買い物に出られないストレスがある。



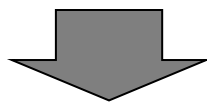
【必要な施策】

- ・オンデマンドバスの運行（きめ細かい交通体系、路線バスとのすみ分け）
- ・自主運営のバスの運行
- ・福祉タクシーの運行

(3) 防災・防犯

【意見】

- ・防災士及び各消防分団をCATVで紹介したらどうか。
- ・防災士の資格を取ったが、その後活用されていない。全員で訓練する等のスキルアップが必要。3年に1回消防関係の講習は実施されている。
- ・防災士は役場職員が多いので緊急時は活動できない。女性の防災士がいればよい。
- ・羽須美は急傾斜地が多い。土石流などがないように集落として見回りも必要。きめ細かい防災対策を集落で考えるべき。町もハザードマップを配っているが、集落の意見を聞いて作成して配るべき。
- ・ハザードマップをケーブルテレビでPRと説明をする。
- ・災害時、一人暮らし世帯は誰が助けるのか、安否確認は誰がするのか、もう少しつっこんで防災計画を作る必要がある。
- ・避難場所に高齢者のトイレを確保すること。
- ・避難場所をもっと安全な場所に設定すべき
- ・防災では人とのつながりが重要。中高生による防災サミットを開催し、防災について語り合える場がほしい。
- ・防災訓練を繰り返すことによりコミュニケーションや助け合いがよくなる。
- ・防災無線の火災時の放送、特に夜間が遅い。消防出張所から直接放送するような方法はできないか。
- ・雨量や水位の情報を流してほしい。
- ・家庭消防隊が高齢化している、町全体での組織化が必要、また出る場を設けてほしい。
- ・公民館を防災拠点施設として整備してほしい。



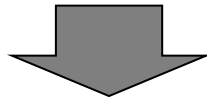
【必要な施策】

- ・災害時のために自主防災体制の確立
- ・自治会での防災訓練の実施・強化
- ・防災士のスキルアップに向けた支援
- ・安全な避難場所の確保（場所・設備等）
- ・防災に関する情報提供の充実

(4) 道路・歩道に関すること

【意見】

- ・ 歩道が利用しにくい。狭いものから幅広いものまで色んな歩道があるが、歩行者目線でないと思う。
- ・ 除雪を早く、きれいにしてほしい。午後や夕方になっている。また、邑南町と美郷町といったように町界で分けなくて広域で一体的に行ってほしい。



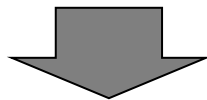
【必要な施策】

- ・ 歩道の整備
- ・ 除雪作業の充実

(5) 医療

【意見】

- ・ 邑智病院の長時間の待ち時間、患者への心配り、声かけがもっと必要。
- ・ 邑智病院をもっとPRをした方が良い。
- ・ 病院へ行くべきか、行くべきでないかの判断に関する情報がほしい。



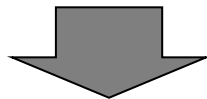
【必要な施策】

- ・ 邑智病院の充実（意識づくり・情報提供等）

(6) 健康づくり

【意見】

- ・ 矢上改善センターに元気館的な運動施設をつくったらいい。
- ・ 元気館を利用する機会が多い。近くでも利用できる施設がほしい。
- ・ ウォーキングで健康づくりをしている。
- ・ 地区民運動会はふれあいをテーマにした方が良い。
- ・ 歩くことが医学的にいいと解っているが仲間がいないと続かない。仲間づくりの指導、助言をしてほしい。



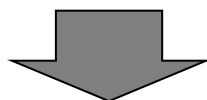
【必要な施策】

- ・ 運動施設の充実
- ・ ウォーキングを生かした健康づくり

(7) 施設・土地利用・交流の場

【意見】

- ・ 動物病院が近くにほしい。
- ・ 日貫保育所を他地域からもっと活用してほしい。
- ・ 子どもは帰らなくても孫が帰ることもある。子供会など交流の場があるとよい。
- ・ コンビニなど都会にあるものが必要



【必要な施策】

- ・ 交流の場の充実